

医療機器産業ビジョン研究会 ワーキンググループ 資料

日本政府と連携した国際展開の重要性

2023年6月

富士フイルムホールディングス株式会社

ガバメントリレーションズ推進部 政策渉外グループ長 松田 周作

**NEVER
STOP**

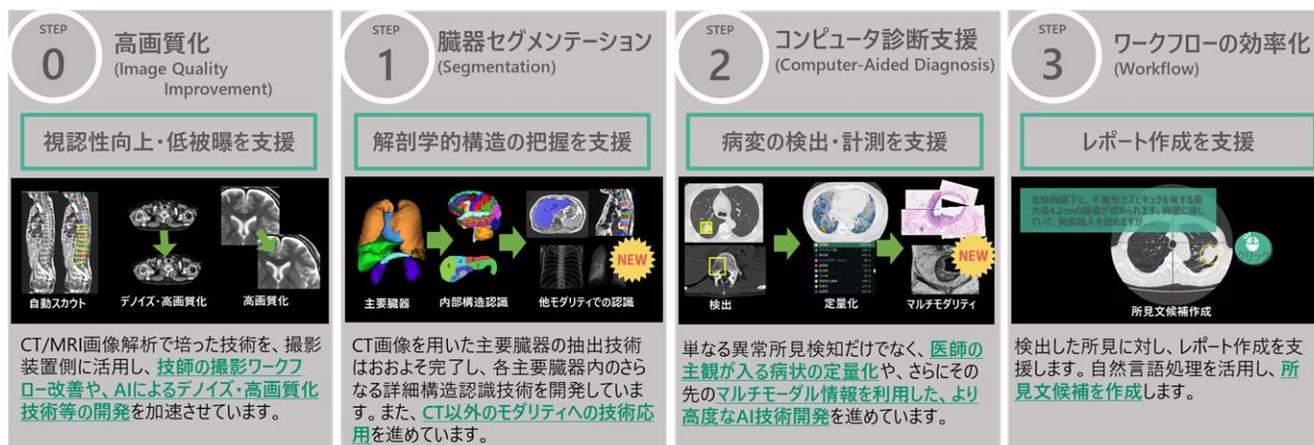
FUJIFILM
Value from Innovation

医療診断分野におけるラインアップを網羅 & AI技術を医療ワークフローへ組み込み

ポートフォリオ拡充 + IT・AI技術による新しい価値



医療AI開発における4つの技術ステップ

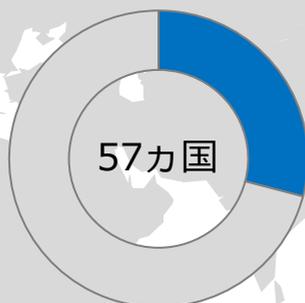


AI技術の世界各国・地域に対するリーチ

医療AIを全世界へ



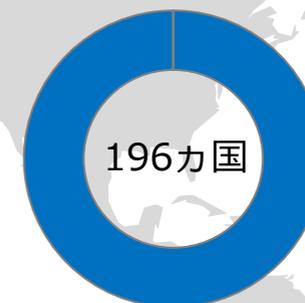
「当社ならではの幅広い製品ラインアップを有する先進医療機器・サービス」、
「グローバルシェアNo.1の当社PACS“SYNAPSE”」、**「業界をリードする医療画像診断AI技術」**を
新興国を含めた世界中へ提供することで、医療アクセスの向上を実現し、社会課題の解決に貢献する



2019年度実績



2023年度目標



2030年度目標

当社の医療AI技術を活用した製品・サービスを、
2030年度までに全ての国と地域に導入し、
医療アクセスの向上を実現する。

※PACS : Picture Archiving and Communication System
医療用画像管理システム。当社はSYNAPSEブランドで展開

国際展開 STEP① 現地キーマンとの関係構築・認知度向上

ブラジル・次世代がん検診センター設立プロジェクト

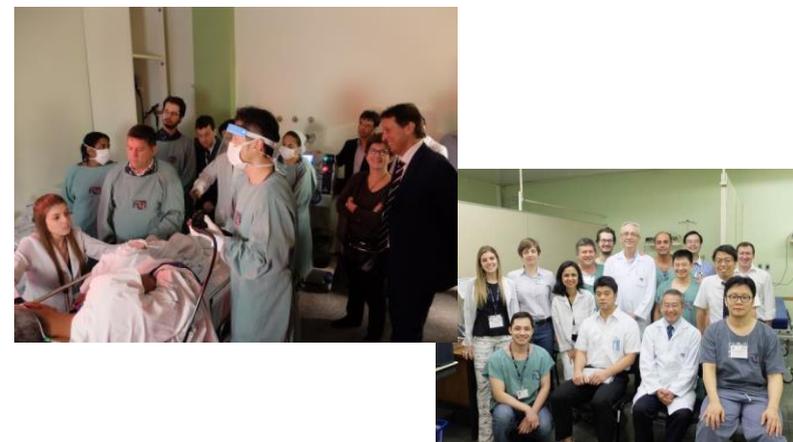
- ブラジルでは生活習慣の変化に伴いがん等による死亡率増加が社会問題化。がんの早期発見に対する取組みが不十分で、検診制度確立や治療システムの導入、診断機材のデジタル化による診察効率向上が喫緊の課題。
- 2013年度の大腸がん検診普及PJの結果を受け、2014年8月の日伯首脳会談で「日本式大腸がん検診」が共同声明に記載された。
- 上記を受け、ブラジルにおけるがん検診の更なる普及を目指し本PJを実施。現地中核医療機関と協働し、また日本の内視鏡医の協力を得て、最新の内視鏡機器による胃がん・大腸がん検診の内視鏡トレーニングを行い、がん検診センターの設立に至った。



検診センター設立に向けた協議
(延べ10回超)



日本のがんセンターを見学、
業務フロー協議



内視鏡トレーニング
(スクリーニング技術指導)

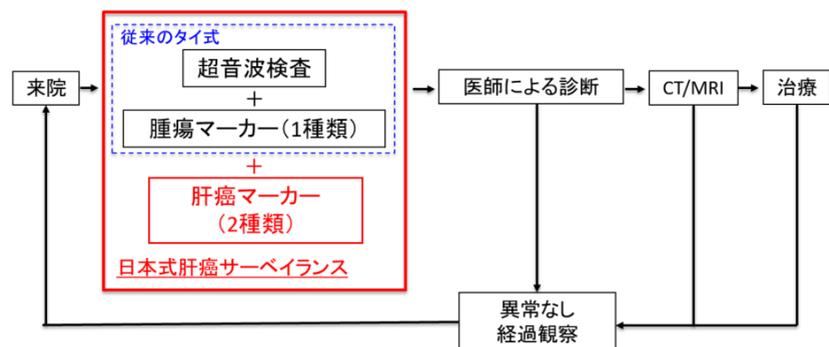
現地の中核病院・KOLとの関係構築を通じ、製品・サービスを展開

国際展開 STEP② 現地のガイドラインへの反映を目指す

タイ・複数の肝がんマーカーを用いたガイドライン/保険収載整備事業

- タイの肝がんサーベイランスは、超音波と1種類の腫瘍マーカーによる検査を推奨。肝がんの早期検出率が低く、発見時には5cm大の進行がんとなっていることが多い。一方、日本においては超音波と複数の腫瘍・肝がんマーカーによる検査が推奨されており、早期肝がんの検出率が高く、1-2cm大の早期がんの発見も可能。
- 日本式肝がんサーベイランスの普及により、肝がんマーカー試薬に加え超音波機器や、CT/MRI等の画像検査機器の導入も促進される。また早期肝がんの検出により治療の選択肢が広がることで、治療機器や薬等を有する他日本企業の進出への寄与も期待される。

日タイそれぞれで推奨されているサーベイランスの違い



日タイ医師によるセミナー
(ケーススタディ・研究報告)



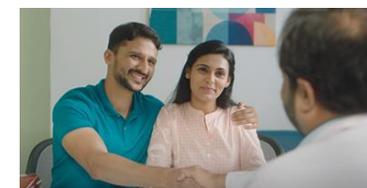
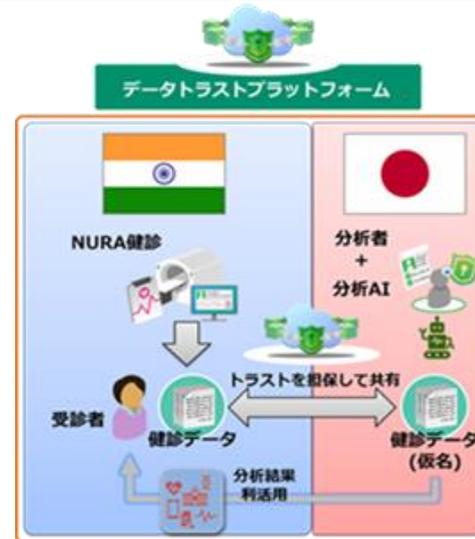
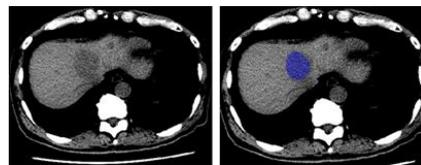
タイ肝臓学会医師がタイの登録検体を用いて
行う、ガイドライン収載に向けた共同研究

現地の医療制度に組み込むことにより、製品・サービスの面展開を図る

国際展開 STEP③ 現地の健康意識変革・健診文化の醸成

インド・AIによる医師支援を活用した健診センター

- インドでは、経済発展とともに生活習慣の欧米化が進み、高塩分・高糖分というインド特有の食文化が重なった結果、生活習慣病からたらされるがんや心臓疾患、脳疾患等が急激に増加。また、体調を崩してから病院や薬局に行くのが一般的で、生活習慣病の重症化予防ができていない。
- インドにおいて健診サービス事業を推進し、定期的に健診を受け健康状態を把握する『健康診断』を広く普及・定着させることで、疾病の早期発見・治療の実現を図る。
- 質の高い健診をリーズナブルな価格で提供する健診センター「NURA（ニューラ）」をインド国内の3都市に開設。今後更なる展開を行っていき、新興国に100センターの開設を目指す。



マーケティング活動

「健康な人が受診したくなる」きれいな設備、親切なスタッフ、先端技術・医師の協働による高精細・短時間（120分）の健診をリーズナブルな価格で提供

健診により得られる医療データを安全に活用できる仕組みを構築していく

健康診断を受ける文化を現地に創出し、新興国における健康社会の実現を目指す

国際展開 STEP④ アフリカにおける取組

ケニア・トレーナー医師の育成を通じた持続的なトレーニング体制の構築

- ケニアは妊産婦死亡率が最も高い国の一つ。また医師数は人口1,000人あたり0.2人程度であり、世界平均の約1.8人と比較して非常に低く、救急外来などにおいても患者が3~4時間待たされるケースが発生している。
- 治療方針を判断するための初期検査「Point of Care (POC)」の理解促進と図ると共に、日本人医師による、超音波診断装置の撮影画像を用いたセミナーや遠隔トレーニング等を通じた医師育成プログラムを実施。
- 持続的・自律的なトレーニング体制を構築し、2年間で9名のケニア人医師がトレーニングカリキュラムを修了し、現在は自身がトレーナーとして後進のケニア人医師を育成している。



ケニアにおける
POC技術トレーニング



米国とケニアを繋いだ遠隔トレーニング



トレーニングカリキュラム
修了生

新興国における人的・物的リソース不足を解消し、医療体制改善を目指す

まとめ

日本政府と連携した国際展開の重要性

STEP① 現地キーマンとの関係構築・認知度向上

STEP② 現地のガイドラインへの反映

STEP③ 現地の健康意識変革・健診文化の醸成

STEP④ アフリカにおける取組

現地保健省や医療機関への足掛かりがない地域では、企業単独ではアプローチが難しく、日本政府との協働PJの意義は大きい。

地政学的に欧米企業が席卷しており、日本企業単独での進出が難しい。
日本政府との協働PJにて欧米の牙城を切り崩したい。

医療の国際展開は企業努力を大前提としつつも、日本企業の足場がない国や地政学的に攻略が困難な国への展開に際しては政府の後押しを強く期待

FUJIFILM
Value from Innovation